

ZEPHYROS

ゼフュロス No.28

The National Museum of Western Art, Tokyo 国立西洋美術館ニュース

ISSN1342-8071



ピーテル・ブリューゲル〔父〕(?)《イカロスの墜落》
16世紀後半、油彩／カンヴァス 73.5×112cm
©KMSKB-MRBAB

ベルギー王立美術館展

会期: 2006年9月12日(火)～12月10日(日)

主催:国立西洋美術館、読売新聞社、ベルギー王立美術館

この度、ベルギー王立美術館展を開催することになりました。フランスとドイツ、そしてイギリスというヨーロッパの大国にはさまれたベルギーの美術は、その重要性にもかかわらず、これまでわが国ではあまり脚光を浴びてはこなかったように思えます。たしかに、アンソールやマグリットの展覧会は幾度か開催され、彼らの名前は比較的好く知られていますが、そこからすぐにベルギーの美術全体を連想する人は決して多くはありませんでした。レンブラントやゴッホという名前がすぐに連想されるオランダ美術と比べても、ベルギーの美術はやや印象が薄かったようです。しかし、ヤン・ファン・エイク、ブリューゲル、ルーベンスという巨匠たちによって代表されるいわゆるフランドル絵画が、実は、同じベルギーという土地が生み出したものであったことを知るならば、この地方の絵画伝統がいかに重要で、また、豊かなものであったかが理解されるに違いありません。

ベルギー王立美術館展

the national museum of western art, tokyo

ブリュッセル、ルーベンス、ヴァン・ダイクら多くの巨匠で知られるフランドル絵画が興隆したのは、油彩画の発祥の地とも言われる現在のベルギーにあたるフランドル地方で



ヤーコブ・ヨルダース 《飲む王様》
1630年代 油彩/カンヴァス 156×210cm
©KMSKB-MRBAB

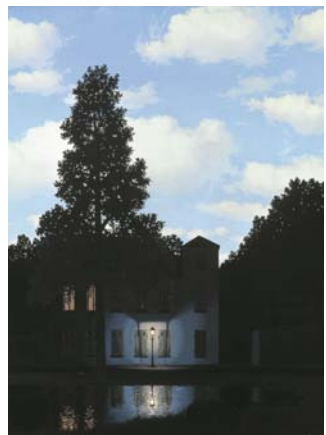
した。ルネサンスからバロックにかけ、イタリア絵画と並んでヨーロッパ絵画の高い峰を形成したのはフランス絵画でもドイツ絵画でもなく、紛れもなくフランドル絵画だったのです。その緻密な描写や豊かな色彩は、ヨーロッパ中の貴族を熱狂させました。フランドル絵画は、この地方がベルギー王国として独立した1830年以降はベルギー絵画と呼ばれ、印象派、象徴主義を経て、20世紀に入ると超現実主義（シュールレアリスム）などへと展開していきます。本展は、16世紀後半のフランドル絵画から20世紀前半のベルギー絵画までのおよそ400年にわたる歴史を、ベルギー美術の“本拠地”ともいうべき、ベルギー最大の美術館であるブリュッセルのベルギー王立美術館の名品でたどる意欲的な企画です。

主な出品作家は、現存の作品が40点ほどしかなく、ほとんど出品されることがないピーテル・ブリュッセルをはじめ、ルーベンス、ヴァン・ダイク、ヨルダースといったバロックの三巨匠。近代ではクノップフ、アンソールといった象徴派、さらにはマグリット、デルヴォーら超現実主義の画家まで多岐にわたります。油彩画70点とデッサン39点から構成される本展は、ベルギー美術の豊かな歴史を堪能させてくれるに違いありません。とりわけ、ブリュッセルの《イカロスの墜落》が出品されることは、大きな話題となることでしょう。この作品に関しては、近年、作者をめぐる多くの議論がありますが、ブリュッセルの代表作として広く親しまれてきた名品であり、作者問題とは別に、ぜひ、この機会にじっくりと鑑賞していただきたいと思います。

(広報担当)

ルネ・マグリット 《光の帝国》
1954年 油彩/カンヴァス
146×114cm

©ADAGP, Paris & SPDA, Tokyo, 2006
©KMSKB-MRBAB



◆「ベルギー王立美術館展」観覧料

一般	1,400円 (1,000円)
大学生	1,100円 (800円)
高校生	600円 (300円)
中学生以下	無料

※ ()内は20名以上の団体割引料金

フランク・ブラングイン版画展

会期： 2006年9月12日(火)～12月10日(日)

the national museum of western art, tokyo

ブラングイン(1867—1956)は、19世紀の後半から20世紀の前半にかけて主にイギリスで活躍した画家です。生まれはブリュージュ(ベルギー)で、幼いうちにイギリス人の両親とともにロンドンに居を移しました。父親が建築や壁画の仕事に従事してい



フランク・ブラングイン
《バーナード・キャッスルの橋》
1907年 エッチング

たこともあります。その後の彼の活動に強い影響を及ぼしたのは、15歳から2年間働いたウィリアム・モリスの工房での経験でした。ここで同時代のアーツ・アンド・クラフツ運動に傾倒したブラングインは、独立後、絵画だけではなく室内装飾やガラス工芸、陶磁器、家具、タペストリーなど多方面にその才能を発揮します。また、ブラングインは、美術品購入のアドバイザーとして、松方コレクションの形成にも深く関与しています。

版画もブラングインが力を注いだ分野のひとつで、エッチング、木版画、リトグラフ合わせて1000点を超える作品を残しました。最も数の多いエッチングでは銅版ではなく亜鉛版を用い、インクを盛り上げて強い明暗を表しています。レンブラントやピラネージからの影響も指摘されるこれらの版画には、ブラングインのダイナミックな画面構成と的確な描写力を見ることができます。今回は橋や教会などの建築物、造船所や運

河で働く労働者たち、戦場での人々といった彼が繰り返し描いた主題を中心にご紹介します。本展は、これらの版画の所蔵先である東京国立博物館のご協力により実現しました。

(主任研究員 大屋美那)

◆常設展観覧料

一般	420円 (210円)
大学生	130円 (70円)
高校生	70円 (40円)
中学生以下	無料
※ ()内は20名以上の団体割引料金	



フランク・ブラングイン
《フリタニア号の船尾》
リトグラフ

「音楽における現実の幻視者—ドビュッシーとショーン」

the national museum of western art, tokyo

当館では、2001年から東京藝術大学にある演奏芸術センターの協力により、年に一回いずれかの展覧会をテーマにコンサートを開催しています。本企画は、今日では別々に鑑賞することが普通となった美術と音楽を、今一度近づけることにより、お互いをより深く楽しむことを目的としています。



ジェラルド・プーレ氏によるヴァイオリン演奏
(ピアノ伴奏は川島余理さん)

今年は、春の「ロダンとカリエール」展をテーマにレクチャー・コンサートを行いました。対象の外見ではなく、その内側にあるもの(内なる生)を表現しようとしたロダンとカリエール。彼らの象徴主義的な側面に注目して、本コンサートでは、音楽というメディアを通して同じものを追求していた同時代のフランスの作曲家、ドビュッシーとショーンがとりあげられました。カリエールが描いたショーン家の肖像画や、ロダンが制作したニジンスキーの彫刻などを映像で紹介しながら、ショーンの《詩曲》、歌曲《リラの季節》、ドビュッシーの《牧神の午後への前奏曲》(ハイフェッツ編曲)などが演奏されました。また、歌曲《夕べの階調》(《ボードレールの5編の詩》から)では、ロダンとドビュッシーがともに創作の原典としたボードレールの詩が朗読されました。コンサートは、ドビュッシーのピアノ伴奏で彼の《ヴァイオリン・ソナタ》を初演した、ガストン・プーレの子息で、本演奏会のヴァイオリニスト、ジェラルド・プーレ氏が演奏する同ソナタで幕を閉じました。

素晴らしい演奏と、同時代を生きた音楽家との交流や作品との関係を知ることにより、ロダンとカリエールを異なる視点から理解する機会となったのではないかと思います。

(主任研究員 寺島洋子)



斉藤由織さん(左)によるボードレール「悪の華」の朗読と王真紀さんの独唱

「ベルギー王立美術館展」に関連して下記のプログラムを実施しますので、ぜひご参加ください。

◆記念講演会

- ① 9月23日(土) 14:00～15:30 **9月9日締切**
河原 温(首都大学東京助教授)
「ルネサンス期フランドルの都市文化:ブリュージュからアントウェルペンへ」
- ② 10月7日(土) 14:00～15:30 **9月23日締切**
荒木成子(清泉女子大学教授)
「初期フランドル絵画の世界」
- ③ 10月21日(土) 14:00～15:30 **10月7日締切**
幸福 輝(国立西洋美術館シニア・キュレーター)
「イカロスのゆくえ:ブリュエル・オア・ノット・ブリュエル」
- ④ 11月4日(土) 14:00～15:30 **10月21日締切**
中村俊春(京都大学教授)
「画家たちの競演:ルーベンスの時代のアントウェルペンの絵画」
- ⑤ 11月18日(土) 14:00～15:30 **11月4日締切**
福満葉子(長崎県美術館学芸員)
「ベルギー象徴派の時代」

会場	国立西洋美術館講堂
定員	各回145名(聴講無料。ただし、展覧会の鑑賞については別途観覧券が必要です。)
応募方法	往復はがきに、氏名(1枚につき1名様限り)、住所(返信にも)、電話番号、希望日(1枚につき1講演のみ)をご記入の上、下記の宛先までお申し込みください(締切日の消印有効)。*応募者多数の場合は抽選になります。
宛先	〒110-0007 東京都台東区上野公園7-7 国立西洋美術館「ベルギー王立美術館展」講演会係

◆スライドトーク

当展覧会の見どころやおもな作品について、夜間開館を行っている下記の金曜日に講堂でスライドを使って解説を行います。

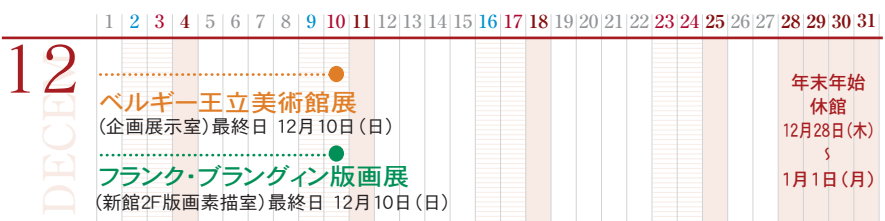
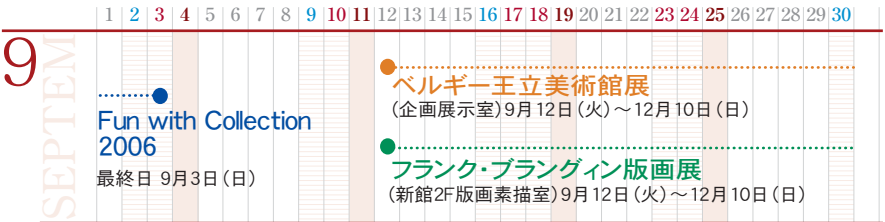
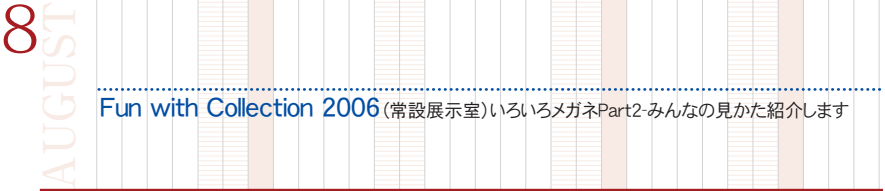
日時	9月29日(金)、10月13日(金)、10月27日(金)、11月10日(金)、11月24日(金) 毎回18:00～(約40分)
解説	廣川暁生(ベルギー王立美術館展アシスタント・キュレーター)
会場	国立西洋美術館講堂
定員	先着145名(展覧会観覧券が必要です) *直接講堂にお越しください。

展示カレンダー [企画展示/常設展示] 2006年8月～2007年1月

常設展示 (本館・新館)

ロダンの彫刻と、中世末期から18世紀末頃までのオールド・マスターの絵画を本館で展示しています。新館では、モネ、ルノワールなどのフランス近代絵画を中心に19世紀半ばから20世紀の絵画を展示しています。

休館日
土日・祝日



※ 展覧会名、会期、内容等は変更されることがあります。

国立西洋美術館

- 所在地…〒110-0007 東京都台東区上野公園7-7
- 開館時間
通常…午前9時30分～午後5時30分(ただし、秋の企画展開会日以降の開館日から春の企画展開催日までの開館期間中=午前9時30分～午後5時)
毎週金曜日…午前9時30分～午後8時(入館は閉館の30分前まで)
- 休館日…月曜日(ただし、月曜日が祝日あるいは振替休日となる場合は翌火曜日) 年末年始(12月28日～翌年1月1日)
- 常設展無料観覧日…毎月第2、第4土曜日と文化の日(11月3日)
- お問い合わせ…ハローダイヤル:03-5777-8600
<http://www.nmwa.go.jp/>

※ 誌名について…「ZEPHYROS」(ゼフュロス)はギリシャ神話の神々のひとり、西風を司る神様の名前です。西欧では暖かさや色ざまだまの花々を運ぶ春の風をさします。

ZEPHYROS

ZEPHYROS 第28号

編集・発行 国立西洋美術館/平成18年8月20日(年4回発行)
協力(財) 西洋美術振興財団
印刷 (株) アイネット